

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	心理学B		
英文授業科目名	Psychology B		
開講年度	2007年度	開講年次	1(2)年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	久野 雅樹		
居室	東1-509		

公開E-Mail	授業関連Webページ
hisano@hc.uec.ac.jp	

<p><b>【主題および達成目標】</b></p> <p>講義のねらいについては「心理学A」をまず参照してください。人間について知り、「汝自らについて知る」ための講義です。科学的な研究の成果をふまえ、あなたの内なる「素朴心理学」をバージョンアップするための講義です。</p> <p>特に後期では、認知心理学的なトピックを中心とします。心理学は広い意味で自然知能学(ないし自然知性学)であると言えますが、認知心理学は、この人間知性のはたらきに特に焦点をあてて研究している学問領域です。</p> <p>本講義では、感覚・知覚、記憶、知能、思考、感情、意識・無意識等のトピックを扱い、生物コンピュータ、情報処理システムとしての人間には、どのような「くせ」があるのかということ、日常経験する現象とも関連させながら多面的に考えます。講義においては、体系的な知識伝授ではなく、問題のありかと自ら考えるための手がかりを提示することをねらっています。十分に自らの脳を使って、「認知活動」を行ってください。授業においては、受け身的に知識を得るにとどまらず、自らの頭を使っていねいに考えて文章化するための訓練も行います。</p>
--

<p><b>【前もって履修しておくべき科目】</b></p> <p>なし。予備知識は前提としません。科目選択にあたって予断をもたないこと。</p>
---

<p><b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b></p> <p>心理学A。</p>
--

【教科書等】

特定の教科書は使用しない予定。参考書については随時紹介します。

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容

以下に、具体的なトピックを示します。各回は前後の回と連続し、全体として一貫した内容を扱っていますが、基本的にそれぞれの回でも完結するように構成されています。

- ・ ガイダンス：自然知能学としての心理学
- ・ 情報活動と学習
- ・ 記憶システムとしての心
- ・ 記憶の脳神経機構
- ・ 記憶と認識
- ・ 記憶研究の展開
- ・ 思考機械としての心
- ・ バランスシステムとしての心
- ・ シミュレーションと認識
- ・ 創造性をめぐって
- ・ 知能の概念と測定
- ・ 知能観とその展開
- ・ 感情システムと適応
- ・ 意欲と努力をめぐって
- ・ まとめ：心の認識可能性

(主題・目標・内容等については、「心理学A」も参照してください。)

(b) 授業の進め方

毎回、配布資料に基づき講義を行い、ミニレポート等の形で、各自の学習成果をまとめてもらいます。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法

平常点と学期末課題、それぞれほぼ60%、40%のウェイトで総合評価を行います。

(b) 評価基準

平常点は単に出席しているということではありません。どの程度しっかりと授業に取り組み自らの認識を深めたかを問題とします。原則として毎回提出物(多くはミニレポート)があります。

学期末課題はレポート(通常、自己について考察する課題)で、内容と形式を総合して評価を行います。

## 電気通信大学 平成19年度シラバス

### 【オフィスアワー：授業相談】

水曜日17:00-18:00のオフィスアワーには、原則として研究室にいます。来室する場合、なるべくメールでアポイントをとるようにしてください（必要があればこの時間以外にも対応します）。

### 【学生へのメッセージ】

大学での講義は一方的に教わるものではありません。講義の充実度は、受講者に大きく依存します。自分の問題として受けとめなければ、何も残りません。また、ひとりひとりのふるまいが、教室全体のムードに影響し、他の人にも影響するということを自覚してください。私語をしたり、マンガを読んだり、内職（レポート書き等）したり、堂々と居眠りしたり、というような学生は受講しないこと。

### 【その他】

ミニレポート要領の資料を必ず受け取ってください。